

外傷学各論		講義	教授 千明 政好
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13371302

1. 授業のねらい・概要

外傷学について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態を外傷部位ごとに解説し系統的な理解をはかる。救命することができる外傷死を減らすための観察・処置判断・について解説し、搬送先の選定を具体的に実施できるような外傷学の知識を身につける

2. 授業の進め方

参加型授業を提案し、双方向的な授業を実現できるようにする。前週に実施した授業を確実に理解することとする。理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに、学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

1. 外傷の病態生理 2. 胸部外傷① 循環血液量減少（血胸、横隔膜損傷など） 3. 胸部外傷② TAFXXX（心タンポナーデなど） 4. 頭部外傷① 急性硬膜外血腫、急性硬膜下血など 5. 頭部外傷② 外傷性くも膜下出血、高次脳機能障害など 6. 顔面・頸部外傷・縊首・絞頸	7. 脊椎・脊髄外傷 8. 腹部外傷 9. 骨盤外傷 10. 四肢外傷・皮膚・軟部組織外傷 11. 小児・高齢者・妊婦の外傷 12. 熱傷（電撃症） 13. 化学損傷 14. 刺咬傷 15. 1 から 14 までのまとめを行う。
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 1) 予習（必要時間：約 50 分）
 - a) 教員はオンライン教材(Google Classroom)を使用し、下記のイ) -ロ) に示す 2 項目を学生に提示する。
 - イ) 学習概要
 - ロ) 小テスト
 - b) 学習概要から出題した課題を提出・授業の冒頭 10 分間で小テストを実施する。
- 2) 復習（必要時間：40 分）
 - a) 授業内容整理
授業で配布したハンドアウト資料を整理させ、次回の授業に提出する。
 - b) 授業内容の再確認
小テストの誤った項目はレポートにまとめ、翌週提出する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 筆記試験
 - a) 採点した試験問題および解答をデータで配布(Google Classroom)する。
 - b) 解説は、不正解問題を中心に行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題に評価とコメントによりフィードバックをする。
 - b) 課題コメントで重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

予防できる外傷死を減らすための観察・処置判断・について解説し、具体的に実施できるような以下の能力を育成することを目的とする。

到達目標

- 1) 救急救命士に係る病院前外傷医療体制を理解すること。
- 2) 外傷死を減らすための救急救命士の観察・処置・判断を理解する。
- 3) 頭部から足のつまさきまで各部の外傷を解剖学的・生理学的な側面から理解する。
- 4) 熱傷・放射線損傷・化学損傷・電撃症などの観察・処置・判断を理解する。

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力と思考力の獲得ができたかを以下の方法で評価する。
 - a) 事前の授業の準備と理解の評価
 - b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
 - c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
 - d) 講義内容の理解度を試験で検討
- 2) 成績評価の方法
 - a) 授業内容の整理・提出 (20 %)
 - イ) 事前の授業の準備と理解 10%
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢 10%
 - b) 筆記試験 (80 %)
 - イ) 中間・期末試験結果それぞれ合計点数の 60%以上を合格とする。
 - ロ) 再試験は期末の 1 回のみ実施
 - ハ) 受験資格として 3 分の 2 以上の出席かつ、全ての課題が提出されている事

8. テキスト・参考文献

改訂第 10 版救急救命士標準テキスト (へるす出版)
改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック (へるす出版)
適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、医療機関における臨床の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。